学校番号	３００１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂版　新高校の数学Ⅰ」（数研出版）						
副教材等	「改訂版　新高校の数学Ⅰ対応　ポイントノート数学Ⅰ」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で問題解決をする活動を行います。
・毎回「目標」を提示し、ただ問題を解くだけでなく疑問に思うことや質問項目などをノートにまとめ積極的に取り組みましょう。
・授業はノート学習及び配布するプリントで行い、授業ごとに提出をします。板書をするだけでなく自ら考え、内容を理解できるように努めましょう。
・問題集は定期考査ごとに提出してもらいます。日ごろから学習を行い、定着に努めましょう。

2　学習の到達目標

数と式、２次関数、図形と計量、集合と命題、データの分析について基礎的な知識や技能を習得する。
また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識するとともに、それらを活用し問題を解決しようとする資質や能力を養うことを目標とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、２次関数、図形と計量、集合と命題、データの分析について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	事象を数学的に捉え、論理的に考察することができる能力、また学習した原理や法則を事象に対し関連付けて考察することができ、またその事象の特徴を表や式、グラフで表現し、問題を解決しようとする資質や能力を養う。	数学の良さを認識し、数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	・計算の基本 ・単項式と多項式 ・多項式の加法・減法・乗法 ・展開の公式 ・因数分解 ・根号を含む計算 ・実数	a:数式の整理、展開、因数分解ができる。有理数、無理数のちがいについて理解し、平方根の意味・性質を理解している。また平方根を含む計算ができる。 b:複雑な式の展開、因数分解について、式の工夫の仕方を判断して計算することができる。自然数、整数、有理数、実数の各範囲で四則演算について閉じているかどうか考察できる。 c: 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に利用しようとする。今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 取組意欲 授業態度
	1次不等式	・1次方程式 ・不等式 ・不等式の解	a:１次方程式の解法、不等式の性質や不等式の解の意味を理解するとともに、１次不等式を解くことができる。 b:身近にある問題を、１次方程式や１次不等式を用いて立式する方法や解の吟味につい考察し、理解できる。 c:１次方程式や１次不等式の解の意味や解法をすすんで理解しようとする。また、また、１次方程式や１次不等式を用いて身近な問題をすすんで解決しようとする。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 授業態度 取組意欲 発表、発言

2学期	2次関数	・関数 ・1次関数のグラフ ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大値、最小値 ・グラフと2次方程式 ・グラフと2次不等式	a:・関数の値を求めたり、１次関数のグラフをかくことができる。 ・２次関数の式からグラフの頂点や軸を求めることができ、グラフを書くことができる。また２次関数の式を平方完成し、グラフを書くことができる。 ・グラフを利用し２次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・因数分解や解の公式を用いて２次方程式を解くことができる。また、２次関数のグラフとｘ軸の共有点のｘ座標を求めることができる。 b:・関数を表、式、グラフによって考察することができる。 ・２次関数のグラフの特徴を考察することができる。 ・２次関数が最大値、最小値を持つことをグラフを用いて、理解しようとする。 ・２次関数グラフとｘ軸との共有点の個数を考察できる。 c:・関数が与えられたとき、そのグラフを書こうとする。 ・一般形で表された２次関数のグラフの頂点の座標を考察しようとする。 ・解の公式の有用性に気づき、積極的に利用しようとする。 ・１次関数と１次方程式の関係から２次関数と２次方程式の関係を考察しようとする。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 授業態度 取組意欲 発表、発言

	図形と計量	・直角三角形と三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 ・鈍角の三角比 ・三角形の面積 ・正弦定理 ・余弦定理	a:・三角比は直角三角形の辺の比であることを理解する。 ・鋭角や鈍角の三角比の値を求めることができる。 ・三角比を用いて、距離や高さを求めることができる。 ・三角比の相互関係を用いて、1つの三角比から他の2つの三角比の値を求めることができる。 ・2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。 ・正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。 ・余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 b:・直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。 ・座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。 ・三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 c:・直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。 ・正弦定理の図形的意味を考察する。 ・余弦定理の図形的意味を考察する。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 授業態度 取組意欲 発表、発言

3学期	集合と命題	・集合 ・命題と集合 ・必要条件と十分条件	a: 集合を｛　｝を用いて表すことができる。部分集合、空集合、和集合、共通部分などを理解し、表すことができる。命題の真偽を集合や反例を用いて判定することができる。必要条件、十分条件の意味を理解している。 b: ベン図などを用いて、集合を視覚的に考察することができる。命題が偽であることを示すには反例を１つあげればよいことを理解している。 c:条件を満たすものの集合の包括関係が命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 授業態度 取組意欲 発表、発言
	データの分析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばり ・データの相関 ・仮説検定の考え方	a:・度数分布表について理解し、度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。 ・データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 ・平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。 ・データの分布と箱ひげ図の関係について理解している。 ・偏差、分散、標準偏差の定義とその意味を理解している。 ・散布図、相関表を作成することができる。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	学習計画表 授業態度 取組意欲 発表、発言

			b:・四分位範囲を求め、データの散らばり具合を比較することができる。 ・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ・標準偏差によって、データの平均値からの散らばり具合を比較することができる。 ・散布図、相関表を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 c:・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ・相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度